

B-27 ポリエステル・綿混紡布の帯電防止効果およびその耐洗たく性について

福岡女大家政 平松 園江

○小田原安子

九州学園福岡女短大 安元 知子

1. 合織は長所が多く需要が非常に多いが、疎水性のため静電気が起こり、汚れやすい。メーカーは、合織の性質をそこなわずに帯電防止を行なうため綿やレーヨンを混紡したり、帯電防止加工処理する等工夫している。私達は、ワイシャツやブラウスとして多く使用されているポリエステル65%、綿35%混紡各種仕上布の帯電防止効果を知り、その洗たく仕上を如何にすればよいかを研究した。

2. まず4社製市販布と、1社の各種仕上加工につき耐洗たく性を比較した。洗たく機は、日立渦巻反転を用いた。次に各種処理を除去した布に、糊（コーンスターチ、CMC、PVA）を濃度5段階、帯電防止剤はメーカーの指示濃度に加工して帯電圧を調べた。帯電圧は、ロータリースタチックテスターで測定した。又糊については、あわせて風合メーターにより風合も調べた。

3. 原布の帯電圧は、 $P \cdot P + S \cdot R < \text{普通品} A \cdot B < P \cdot P$ 加工の順である。その洗たくによる変化は、 $P \cdot P$ 加工と普通品は、原布とほとんど変わらず、 $P \cdot P + S \cdot R$ 加工は、5回洗たくで $P \cdot P$ 加工程度にまで帯電圧が増す。糊については、糊の硬さを感じない様な薄い濃度でも帯電防止効果は認められる。3種の糊では、CMCの効果が大きく、コーンスターチとPVAは大体同じであ

る。硬さは、CMC > PVA > コーンスターチの順である。又帯電防止剤，市販の糊および仕上剤も糊と大体同じ帯電防止効果を示す。